



特集

「聖地」復活

「モーグルの聖地」リステルスキーファンタジアで3年ぶりに開催されたW杯復興に向けて歩む福島を世界に発信するため、大会名には「福島猪苗代」と冠された悪天候に見舞われながらも、無事成功裏に終わったこの大会を振り返る



Pick Up

今月のイベント

ジオパーク関係者が 全国から集まり研修会

日本ジオパークネットワーク（JGN）と磐梯山ジオパーク協議会が主催する第2回JGN全国研修会は2月14、15の両日、国立磐梯青少年交流の家などで開催されました。

この研修会には日本ジオパーク21地域とジオパーク構想を持つ4地域などから約60人が参加。ジオパークの見どころなどを観光客らに紹介する解説板について理解を深めました。

14日はJGN事務局の杉本伸一さんらが解説板について説明。「教育目的ではなく、観光向けにすべきだ」などと分かりやすさの必要性を訴えました。その後、各地域から持ち寄った解説板を比較しながらその在り方を検討したほか、グループに分かれて既存の解説板をデザインしなおすなどしました。

15日は猪苗代湖や五色沼など、磐梯山ジオパークを4コースに分けて視察。磐梯山ジオパークのジオガイドが参加者らを案内しました。

「ジオパーク」

科学的に見て特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産を複数含む自然公園の一種。磐梯山は2011年9月に日本ジオパーク協議会に加盟。磐梯山ジオパーク協議会が中心となり、世界ジオパークへの加盟を目指している。

まちの応援マガジン いなわしろ

広報 猪苗代

Mar.2013
3
No.629



今月の表紙

W杯のデュアルモーグル予選に挑む遠藤尚選手。ひととき大きな声援が送られる中、果敢にコースを攻め日本男子勢でただ一人、決勝進出を果たしました。

【撮影日】 2月24日
【撮影場所】 リステルスキーファンタジア

Contents — 【目次】

- 02 Pick up
- 03 特集 「聖地」復活
- 10 スクールトップピックス & ニュース INAWASHIRO
- 12 まちのわだい
- 15 町民意見箱「ご意見箱」
- 16 笑顔でこんにちは／猪苗代そば紀行／保健だより
- 18 学びの泉
- 20 いなわしろタウンページ
- 26 暮らしの情報広場
- 28 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー

世界最高峰の技に大歓声

3年ぶりに「モーグルの聖地」に戻ってきたW杯開催を心待ちにしていたファンらは次々と繰り広げられる世界最高峰の技に沸いた



1_王者キングズベリーの華麗なエアに歓声を上げる観客ら／2_モーグル、デュアルモーグルの2種目で決勝進出を果たした星野純子選手のエア／3_デュアルモーグルでの優勝が決まり、ガッツポーズする伊藤みき選手／4_伊藤みき選手の滑り／5_3年ぶりにW杯が開催されたリステルスキーファンタジアの「ダフィーコース」

「2013 FISS フリースタイルスキーワールドカップ（W杯）福島猪苗代大会」は2月23、24の両日、リステルスキーファンタジアで開催された。日本からは、バンクーバー五輪7位入賞、今季のW杯でも好成績を残している本町出身の遠藤尚選手（猪苗代高卒）をはじめ、フリースタイルスキー世界選手権猪苗代大会でモーグル、デュアルモーグルの2種目を制覇した上村愛子選手、地元リステル所属の星野純子選手ら男女合わせて18人が出場した。

23日 モーグル

23日は冬季五輪競技でもある人気種目のモーグルを開催。好天に恵まれたこの日、会場には約三千人の観客が訪れた。

女子の上村愛子選手が決勝の上位6選手によるスパーファイナル（SF）で日本勢最高の5位に入賞。予選を首位で通過

し、表彰台が期待された村田愛里咲選手はSFで転倒し6位だった。星野純子選手は本拠地で念願の決勝進出を果たし16位。伊藤みき選手（北野建設）は予選で敗退した。オードリー・ロビショー選手（カナダ）が今季初勝利、通算2勝目を挙げた。日本男子勢はSFを逃し西伸幸選手（白馬ク）の7位が最高。ミカエル・キングズベリー選手（カナダ）が通算16勝目となる今季6勝目をマークした。上位進出が期待されていた遠藤尚選手は予選で第1エアの着地後にバランスを崩し、決勝進出を逃した。

競技の合間には、今季限りでの引退を表明している附田雄剛選手と里谷多英選手の引退セレモニーを開催。2人は観客の前でラストランを披露した後、現役選手から花束を贈呈され、胴上げを受けた。

▼男子モーグル結果 ①ミカエル・キングズベリー（カナダ）②ブラドリー・ウィルソン（米国）③アレックス・ピロドー（カナダ）⑦西伸幸（白馬ク）⑬吉川空（フリー）⑰鈴木健太（A

P山形）⑱山口卓也（白馬ク）⑳四方元幾（愛知工大）㉑小林樹生（白馬ク）㉒三原大暉（富山FSC）㉓遠藤尚（忍建設）（1～6位はスパーファイナル、7～16位は決勝、17位以下は予選の成績、森山素直㉔ばんけい㉕、掘島行真㉖岐阜・池中㉗は予選途中棄権）

▼女子モーグル結果 ①オードリー・ロビショー（カナダ）

②ニコラ・スドバ（チェコ）③クロー・デュフルラポワント（カナダ）⑤上村愛子（北野建設）⑥村田愛里咲（北翔大）⑨岩本憧子（中京大）⑬市村美樹（中京大）⑯星野純子（リステル）⑳水谷夏女（サミー）㉑伊藤みき（北野建設）㉒伊藤さつき（立命大）（1～6位はスパーファイナル、7～16位は決勝、17位以下は予選の成績）

24日 デュアルモーグル

最終日の24日は予選を通過した16人でトーナメント戦を行うデュアルモーグルを開催。強風のため会場に行くリフトが止まるなどしたが、競技会場のダフィーコースは比較的穏やかな天気で、競技は予定通り行われた。二千人を超える観客が徒歩で会場に足を運んだ。

日本勢は女子の伊藤みき選手が優勝。予選を2位で通過すると、決勝トーナメントも抜群の安定感で強敵を退け、W杯初優勝を果たした。上村愛子選手は前日のモーグルに続き5位に入賞。星野純子選手は前日に続き決勝進出を果たしたが決勝トーナメント1回戦で敗れ14位。村田愛里咲選手は予選落ちだった。男子はエースの遠藤尚選手が日本男子勢で唯一決勝進出を果たしたが、決勝トーナメント1回戦で優勝したブラドリー・ウィルソン選手（米国）に惜しくも敗れ、13位だった。西伸幸選手、吉川空選手らは予選を突破できなかった。

▼男子デュアルモーグル結果

①ブラドリー・ウィルソン②アレックス・ピロドー③ジョセフ・デイスコー（米国）⑬遠藤尚⑱山口卓也⑳四方元幾㉑吉川空㉒西伸幸㉓鈴木健太㉔森山素直（掘島行真、三原大暉、小林樹生は棄権）

▼女子デュアルモーグル結果

①伊藤みき②ミカエラ・マシューズ（米国）③ハンナ・カーニー（米国）⑤上村愛子⑬星野純子⑰岩本憧子⑱水谷夏女⑲伊藤さつき㉑市村美樹㉒村田愛里咲（決勝に進めなかった17位以下は予選の成績で順位決定）

独占インタビュー

遠藤 尚

3年前、初出場の冬季五輪で入賞。その後も着実に力をつけ、今や日本モーグル界のエースに成長した遠藤尚（忍建設、猪苗代高卒）凱旋レースとなった今回のW杯にかけた思いと世界選手権への意気込みやソチ五輪への思いを語る



Profile えんどう・しょう

忍建設スキー部所属

猪苗代町渋谷出身 猪苗代高卒

3歳からスキーを始め、小学校5年生でチームリステルジュニアに所属。本格的にモーグルを始める。猪苗代高時代から日本代表としてW杯に出場、世界を転戦する。

バンクーバー冬季五輪7位。2011/2012シーズン世界ランク8位

1990年7月4日生まれ 178㌢、70㌔。趣味はバスフィッシング

日本のエースへと成長

3年前、初めて出場した冬季五輪で日本男子モーグル史上初となる7位入賞を果たし、一躍脚光を浴びた遠藤。五輪後のインタビューでは「4年後のソチ五輪では金メダルを取りたい」と話した。

シーズンを重ねるごとに着実に力をつけてきた。10/11シーズンにはワールドカップ（W杯）中国・北大湖大会で表彰台まであと一步の4位入賞を果たし、11/12シーズンにはオーレ大会で3位入賞。W杯で初めて表彰台に立った。このシーズンのW杯では、5度の1桁順位を記録。世界ランキング8位でシーズンを終え、名実ともに日本のエースとなった。

今季はカルガリーでのW杯第4戦で3位に入賞、2度目の表彰台に立ったのを皮切りに、第5戦で4位、第6戦で6位、第7戦で4位と1桁順位を連発。地元猪苗代で開かれる第8戦、遠藤にかかる期待は大きなものになっていった。

待ちに待った地元でのW杯

どのレースも優勝を目標に挑んでいる遠藤だが、自身がモー

グルを始めた場所で開催される大会への思いは特別だった。「猪苗代でのW杯開催が決まった時から、出場していい滑りを見せたい、それが恩返しになるという思いが強くありました。意識しすぎるのは良くないと思っていたのですが、意識せずにはいられませんでした」と遠藤は話す。

まずは3月の世界選手権そして来年のソチ五輪へ

地元開催のW杯では納得のいく滑りができなかったが、いつまでも落ち込んではいられない。「ここでいい滑りができなかった分、（3月5日から8日にかけて開催される）世界選手権でしっかり滑りたいです。自分の滑りをすれば、結果はついてくると思います。目標はもちろん優勝。それは常に変わりません」。（※注）

そう話す遠藤の目は、早くも世界選手権開催地のボスへと向けられている。そして、来年は目標にしていたソチ五輪が待っている。

「外国人選手と対等に渡り合って、ソチで金を取るためには、さらなるフィジカル面の強化が必要になると思います。来季もしっかりトレーニングを積んで、万全の状態でおリンピックイヤーシーズンに臨みたいと思います」。

さらなる高みを目指し、躍進を続ける日本の若きエースは、そうやって力強い笑顔を見せた。



1_デュアルモーグル予選での滑り。果敢にコースを攻め日本男子勢でただ一人、決勝進出を果たした／2_モーグル予選で見せたダイナミックなエア／3_「遠藤尚」と名前がコールされると、観客席からはひととき大きな歓声が上がった

グルを始めた場所で開催される大会への思いは特別だった。「猪苗代でのW杯開催が決まった時から、出場していい滑りを見せたい、それが恩返しになるという思いが強くありました。意識しすぎるのは良くないと思っていたのですが、意識せずにはいられませんでした」と遠藤は話す。

迎えた初日。「得意のシングル（モーグル）でいい滑りをしたい」。その思いの強さがプレッシャーとなった。若きエースに向けられたこの日一番の声援も遠藤に重くのしかかった。

その大声援を受けながらスタートした予選。第1エアの着地後にスキーが雪に引っかかり、バランスを崩した。決勝進出を逃した遠藤は「力が入り過ぎてしまった。とても悔しいです」とレースを振り返った。

気持ちを切り替えて臨んだ2日目のデュアルモーグル。日本男子勢で唯一の決勝進出を果たし、エースとしての意地を見せたが、決勝トーナメント1回戦、今大会の優勝者に敗れ、13位に終わった。

「いい滑りができなくて申し訳ないです」と地元で優勝を果たせなかった悔しさをにじませた遠藤。「来年は今よりもっと

【注】遠藤選手へのインタビューは2月24日に行いました。

Interview 私の感じたワールドカップ



●山口 猛さん
真紀さん
(須賀川市)

3年前に来たときは霧による視界不良で中止になってしまったので、今回の大会をととても楽しみにしていました。テレビで見るのとは迫力が違います。来年もやればまた来たいです。



町商工会青年部
●吉野 貴之さん

ご当地グルメの「そば餃子」のPRと地元を盛り上げたいという思いで屋台村に出店しました。予定していた数は売れませんでした。寒い中多くのお客さんが来てくれました。町を盛り上げるために引き続き来年も開催してほしいです。



●中村 了さん
佐知子さん
優哉くん
愛子さん
(いわき市)

震災前はよく見に来ていたので、猪苗代での開催を待ちに待っていました。迫力のあるエアが生で見られて最高です。



曲淵大根クラブ
●渡部 喜則さん

選手や観客の皆さんにふるまうため、餅をつきました。前にもW杯や世界選手権で雪だるまを作ったことから、今回も協力しました。あいにくの天気ではありましたが、お客さんが喜んで食べてくれました。次は選手の皆さんにも食べてもらえたらいいですね。



1_ 道の両脇に雪だるまが作られた「雪だるまロード」／2_ 雪だるま 200個が何日もかけて作られた／3_ 商工会青年部の部員らは2日かけてそば餃子500個の仕込みをした／4_ 開会式でマーチングバンドの演奏を披露する長瀬小学校の児童ら／5_ 多くのお客さんでにぎわった地元グルメ屋台村／6_ 上村選手と子どもたちが記念撮影

みんなを支えた「祭り」

選手や観客をおもてなしの心で迎えた
選手は最高のパフォーマンスで福島を元気づけた
観客は大きな声援を送り、それを支えた

今回のW杯には被災地支援の思いが込められ、前回の13カ国を上回る16カ国がエントリーした。選手たちは、世界トップレベルのパフォーマンスを通して、復興に向けて歩む県民に元気を与えてくれた。

選手らも復興を応援

大会期間中は駐車場などで多彩なイベントを開いた。郷土色にこだわって、復興に向けて進む福島を全面に打ち出した。猪苗代ライオンズクラブや猪苗代ロータリークラブ、長瀬地区区長会などは歓迎の気持ちを込めて、約200個の雪だるまやかまぐら、滑り台などを会場に作った。全国各地から訪れた子どもたちは歓声を上げて雪遊びを満喫した。

地元グルメ屋台村では町商工会青年部のそば餃子をはじめ、自慢のご当地料理や特産品を販売、食の安全と安心をPRした。最終日に予定していた花火は、荒天のため中止となったが、海外の選手からは「手厚い歓迎を受けた」と感謝の言葉が述べられた。

郷土色あふれるイベント

役買った。

3年ぶりに「聖地」に戻ったW杯は、来季以降の開催に向けて意義のある大会となった。過去のW杯や世界選手権で養われた「おもてなしの心」はまだ健在だった。

みんなの思いが一つに

W杯で世界各国を転戦する選手らは「猪苗代のホスピタリティ」と話したが、私たちも世界トップレベルの熱い滑りに元気をもらった。そしてその最高のパフォーマンスを観客の声援が支えた。福島を応援しようというみんなの気持ちが一つになり、大会を成功へと導いた。

上村愛子選手は競技を終えた後、交流会を開き町内の小学生や宮城県塩釜市の子どもたちと交流会を開いた。遠藤尚、星野純子両選手も競技終了後に地元の子どもたちと記念撮影をするなど、交流を図った。

デュアルモーグルで優勝した伊藤みき選手は「競技を通じて支援する気持ちを伝えた」と話した。

22日に行われた開会式では、世界各国の選手や関係者らを町を挙げて歓迎した。開会式では前後公町長が「選手、関係者の皆さんを町を挙げて歓迎します。皆さんの力を借り、復興に向けて努力していきたい」と選手らを歓迎した。会場では川桁謡真鼓楽会と長瀬小マーチングバンドが演奏を披露し、歓迎ムードを盛り上げた。猪苗代青年会議所のメンバーは裏方として参加。舞台のセッティングや楽器の搬入などのほか、会場の入り口で選手らに法被を配り、「祭り」の演出に一

町を挙げてのおもてなし

今回のW杯は東日本大震災と東京電力福島第一原発事故後、県内で初めて開かれたスポーツの国際大会となった。復興に向けて歩む福島を世界に発信するため、大会の名称は「福島猪苗代大会」とされた。

本県の安全、安心を発信しよう、会場では「祭り」と銘付いた多彩なイベントを開き、町を挙げて大会を盛り上げた。